

『風景画』(絵画)の準備をしておきましょう！

2年生の絵画のテーマは、『風景画』です。

風景画では、**遠近法**を学習して“奥行き”や“広がり”をどのように表現するかを学ぶ機会にしたいと思います。

この課題に取り組んでいくにあたっては、1年生の『静物画』と同じように写真を使つての制作になります。どのような場所を選んで作品にしようか考える機会にしましょう。そして、それを参考に写真の準備をしてください。

まずは、

1、遠近法を学習しましょう。

風景を描くにあたって、“奥行き”や“広がり”を表現するためには、**遠近法**の知識をもっているとしっかりとした表現をするのに役立ちます。

そこで、描く場所を考える前に、予備知識として**遠近法**を学習したいと思います。私が考えるに、遠近感を表現する(**遠近法**)には、大きく2つの方向からのアプローチに分けられると思います。

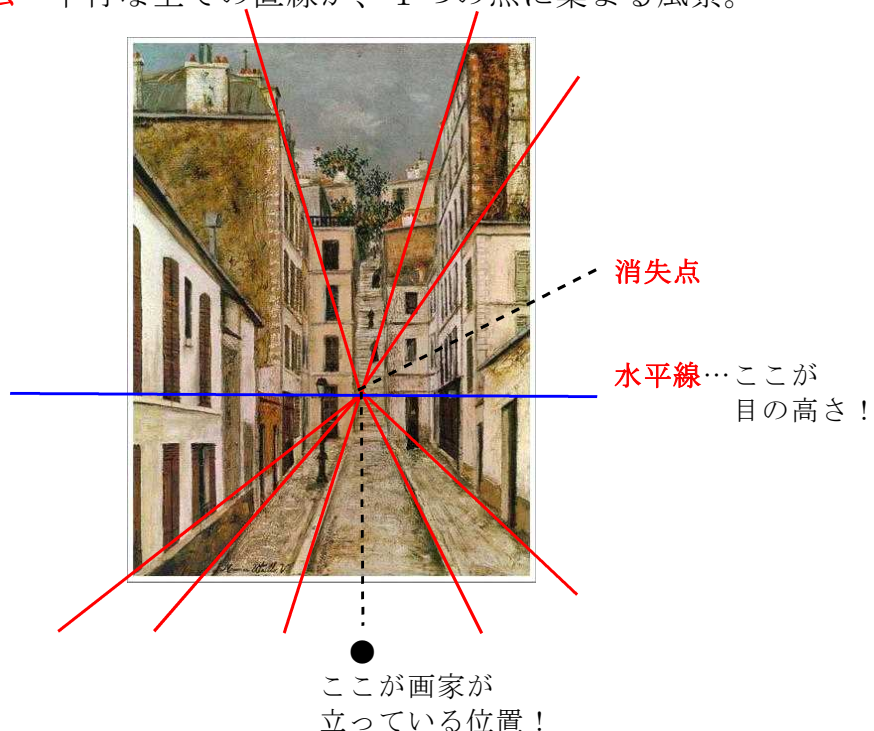
※【美術資料】の『構図と遠近法』の(P17)

をあわせて見ると参考になるとと思います。

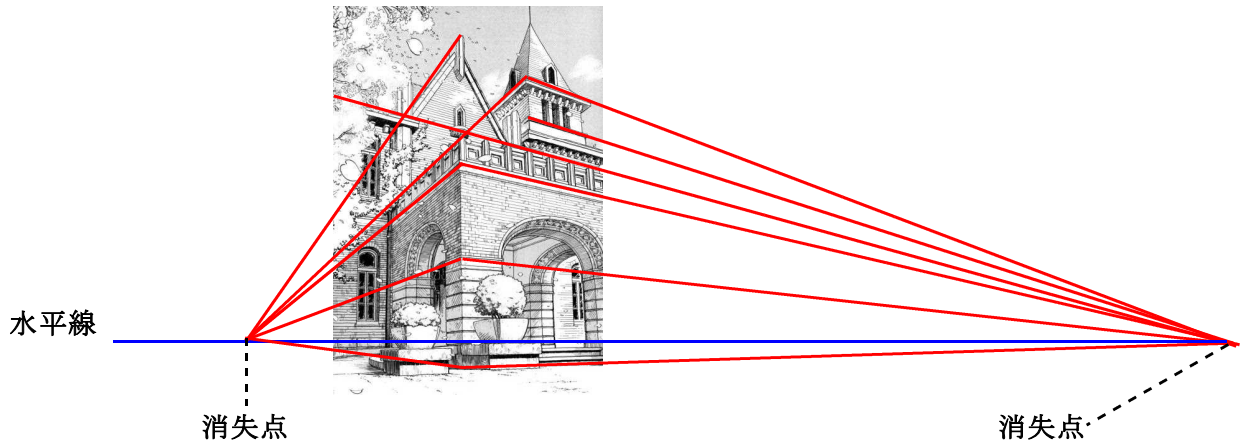
☆1つめは、形を描く時に活用できる線の遠近法を**線遠近法**といいいます。

これらの表現には、**透視図法**を用います。

- ・ **一点透視図法**…平行な全ての直線が、1つの点に集まる風景。



- **二点透視図法**…平行な全ての直線が、両端の2つの点に集まる風景。



- **三点透視図法**…平行な全ての直線が、3方向の点に集まる風景。
高いところに立って見下ろしたり、高いところを見上げたりする場合に存在しますが、実際に風景画を描く場合には、余り向いているとは思えないので、ここでは説明を省きます。

※透視図法は、平行な直線がある場面にあてはまるので、建物などの人工物（人の作った物）の遠近感を表現するときに活用できます。

☆2つめに、色を塗る時に活用できる色の遠近法があります。
これらの表現には、幾つかあります。【武蔵野美術大学 造形ファイル】参照

- **空気遠近法**…空気遠近法は、大気を持つ性質を利用した空間表現法。
例えば戸外の風景を眺めてみると、遠景に向かうほどに対象物は青味がかって見え、また同時に、遠景ほど輪郭線が不明瞭になり、対象物は霞（かす）んで見えます。空気感を表現するため、主に屋外風景で効果を発揮します。遠くのはものは空の色に近づけるイメージで徐々に青っぽい色にします。



- **色彩遠近法**…色の持つ心理的作用や視覚的效果を利用した空間表現法。
この他にも明度や彩度、色相の強弱などを使った遠近法などが存在しますが、詳しく色の性質などを勉強した後にチャレンジしてくれればよいと思うので、ここでは説明を省きます。

※色彩の遠近法は、透視図法が利用できない自然の風景の遠近感を表現するときにも活用できます。

次に、

2、どんな風景を描こうかを考えましょう。

遠近感の表現について見識を深めたところで、どんな風景を描こうか考えましょう。

※【美術資料】の『風景を描く』（P38～P39）

をあわせて見るとイメージが膨らむかもしれません。

たとえば、

- ・旅先で出会った美しい景色。
- ・雰囲気や味わいのある思い出の場所。
- ・身近で慣れ親しんだ風景。

など、基本的に自分の心に残るものがある場所がかまいませんが、**実際に自分の目で見たことのある風景を選びましょう**。写真は利用しますが、実際に見た景色と写真では、空気感や奥行き、迫力、印象などが同じに感じられないことの方が多いのです。また、その際、きれいなだけで選ばず、絵にすることを考えて決めましょう。

では、

3、描く場所の写真を準備しましょう。

どこの風景を描こうか方向が決まったら、写真を用意しましょう。使用する写真については、実際に自分の目で見たことのある風景であるならば、過去に撮った写真（家族で旅行したときに撮ったなど…）でもかまいません。また、そういった写真で気に入ったものがなかったら、家の近所で写真を撮ってみてください。

現在このような状態なので、気に入った場所があっても、遠くまで出かけたり、旅行をしたりするような機会がないと思います。それは、くれぐれも無理をしないでください。ただ、近所を見回してみると、密かにすてきな風景があったりします。この際なので、そうした手軽にいける範囲のよい場所を探してみるのも新しい発見につながるのではないのでしょうか。

また、決定した風景写真を家庭のプリンターで写真用の紙（A4サイズ）にプリントできる人は、してほしいです。お店でプリントする場合は高価なので、2Lサイズでよいので、1枚きれいなプリントを用意してくれると作業がしやすいです。これは、昨年と同様の準備の仕方てOKです。

もし、どの場所にしようか迷っているなどの相談や質問がありましたら、学校に来る日に写真を持って来てくれると、より具体的な話ができるかと思えます。

【予告】

今回は、実際に制作にとりかかるために構図を決めるところを説明したいと思えます。そして、写真が用意できて、先に進められる準備が整った人は、構図を決めて、スケッチブックに大まかに描いて確認するところまで進めておいてほしいです。